

18kDa トランスロケータ蛋白画像化による 神経変性疾患の診断

～新規トレーサ開発による高精度イメージングの可能性～

2011/7/28(木) 17:30～18:30

大阪大学医学部 臨床研究棟 3階 セミナー室

独立行政法人国立長寿医療研究センター
認知症先進医療開発センター脳機能画像診断開発部

分子探索子開発室長 **旗野健太郎先生**

18kDa トランスロケータ蛋白(TSP0)は末梢性ベンゾジアゼピン受容体とも呼ばれ、神経変性に伴う神経炎症のマーカーとして注目されています。ミクログリア細胞は正常脳組織にも存在し、神経栄養的に振る舞い、炎症の惹起に伴って活性化され毒性を発揮すると考えられます。TSP0はこのミクログリア活性化のマーカーとして期待されています。

TSP0の画像化のためのPET薬剤として(R)-PK11195が広く知られており、様々な神経変性疾患や脳障害において(R)-PK11195によるPETイメージングが多く試みられてきました。しかし、(R)-PK11195は脳移行性が低く、また、TSP0に対する親和性が小さいという問題があります。

旗野健太郎先生は、これら欠点を克服した、新たなTSP0リガンドの開発および変性疾患モデル動物と高分解能PETを用いたその評価を行っております。本講演では、長寿医療研究センターにおける最新の研究成果を紹介していただき、PETによる神経変性疾患イメージングの可能性を示していただきます。

略歴

平成 2 年 3 月	東北大学大学院薬学研究科修了、薬学博士
平成 2 年 4 月	学校法人岩手医科大学サイクロترونセンター助手
平成 7 年 1 2 月	国立療養所中部病院長寿医療研究センター生体機能研究部機能評価研究室長
平成 1 6 年 3 月	国立長寿医療センター研究所長寿脳科学研究部加齢性変化研究室長
平成 2 2 年 4 月	改組により現職

主 催:PET 分子イメージングセンター

連絡先:大阪大学医学系研究科核医学講座(06-6879-3461)

hatazawa@tracer.med.osaka-u.ac.jp

<http://www.tracer.med.osaka-u.ac.jp/index-jp.htm>